ヘリウム危機の常態化
確保、価格共に厳しい

例）名工大実績　　液化機保有、年約10,000L供給、回収率90%以上

	2021年	2022年	2023年 2024年	2025年
液化ヘリウム（円／100L）	346,500	511,500	709,500	806,300
		1.5倍	2.0倍	2.3倍

SQUID磁束計使用料金/日　6,000円 → 8,000円 → 10,000円

使用料金の上昇　→　測定回数の減少、研究活動の低下

日本物理学会からの声明

2019年12月20日

「ヘリウム危機」に臨んでの緊急声明文

「ヘリウムリサイクル社会を目指して」

1．日本では，希少で貴重な資源であるヘリウムを極力リサイクルして使用すべきである．

2．研究機関のヘリウムユーザー，関連企業，政府は協力してヘリウムリサイクルを推進するための環境整備を行い，研究・企業活動を通してのリサイクルに努めるべきである．

3．将来のヘリウム危機に備えての備蓄施設の整備が望ましい．